

節電・省エネの夏が終わる

「節電への努力と効果を確認」

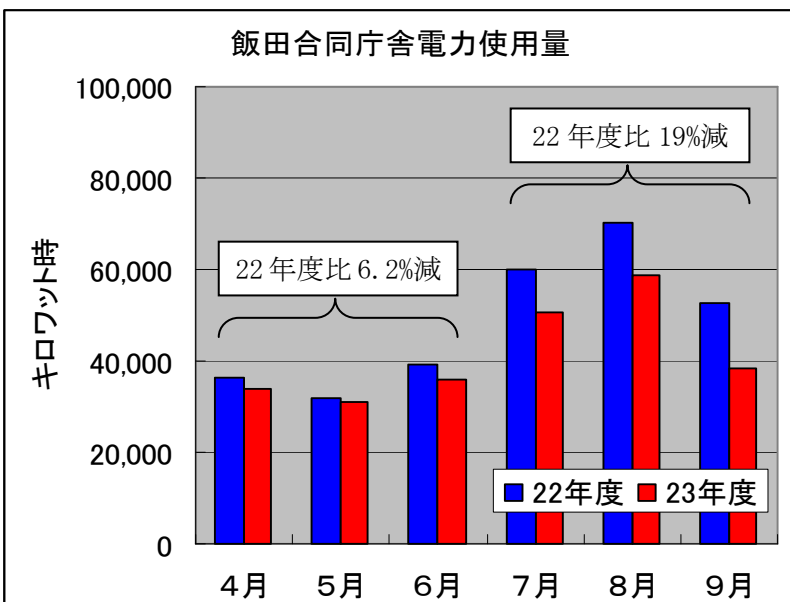
この夏は、東北地方太平洋沖地震に伴う福島第一原子力発電所の事故の影響で、中部電力の浜岡原子力発電所が運転を停止し、長野県内でも、県民総ぐるみの節電・省エネが求められました。こうした中、長野県においては、「長野県省エネルギー・自然エネルギー推進本部」を立ち上げ、県民総ぐるみの「さわやか信州省エネ大作戦」を展開し、節電・省エネを進めました。

長野県では、六月十五日(水)～九月三十日(金)を「さわやか信州省エネ大作戦」の取組期間とし、平日の昼間十三時～十六時の使用最大電力について、前年比マイナス五パーセント(約十五万キロワット分の削減)を全県の削減目標としました。具体的な取り組みとしては、節電・省エネを呼びかけるとともに、「ピークカットチャレンジ」(六月二十二日、七月七日、七月二十六日)の実施、プレミアムエコポイントキャンペーンの実施等を行いました。

また、県機関の取組としては、平日の昼間十三時～十六時の使用最大電力について、前年比一〇パーセントの削減となり、目標である前年比一〇パーセントの削減を達成しました。

飯田合同庁舎では、最大電力ではなく、電力使用量ではありますが、七月～九月の期間において、前年比一九パーセントの削減を行うことができました。(グラフ参照)

飯田合同庁舎では、最大電力ではなく、電力使用量ではありますが、七月～九月の期間において、前年比一九パーセントの削減を行うことができました。(グラフ参照)



省エネの取組み

信州エコポイント

参加申込を行い、月ごとの今年と去年の電気・ガス・水道の使用量を報告することで、いずれかの使用量が前年より削減できた月につき一ポイント(一年間で最大十二ポイント)がもらえます。ポイントは協賛店で、一ポイント＝百円相当で使用できます。

また、現在はプレミアムエコポイントのキャンペーンも行っていて、十二月～二月の三ヶ月間の電気使用量の合計が、前年よりも減少した場合、特別に五ポイントがもらえます。

エコとく講習会

エコとく診断

長野県から委託を受けた事業受託団体が、専門の省エネアドバイザーをご希望の日時に無料で派遣して、「エコとく講習会」と「エコとく診断」を実施します。

県内にお住まいの方なら、どなたでもお申し込みができます。

「生活と環境まつり2011」

飯田文化会館にて開催

去る十月二十九日(土)に、「生活と環境まつり2011」が飯田文化会館で行われました。このまつりは、飯田・下伊那の将来(あす)の生活と環境を考えるイベントとして、生活と環境まつり実行委員会主催で、「第40回いきいきみんなの生活展」、「健康いいだ21フェスティバル」、「飯田市環境フェア20

11」の三つが、合同で開催されました。今年(土曜日)の開催でしたが、「いきいきみんなの生活展」では、「見なおそう!こころ豊かな地域を」環境、情報、助けあい!」、「健康いいだ21フェスティバル」では、「市民総健康」と「生涯現役」をめざして、「飯田市環境フェア2011」では、「手



軽でお得な「省エネ」に取り組もう!と、それぞれのテーマをもとに、様々な展示とともに、NPO法人による省エネ診断、食育推進大会による食品展示、試食、昔の遊び伝承などの体験コーナーが催されました。

今年(七月)に地上デジタル放送への完全移行が行われたこともあり、それに伴い不用となったテレビの回収が、長野県電気商業組合飯田支部によって行われました。

また、長野県の展示ブースでは、3R普及啓発のパネル展示、信州エコポイントへの参加登録が行われました。信州エコポイントには、四十世帯を超える参加登録がありました。

そして、会場内では、東日本大震災復興支援の東北物産販売も行われ、会場は盛況でした。

中央新幹線建設に関する環境影響評価手続きが始まる

去る九月二十七日(火)にJR東海から環境影響評価法に基づく環境影響評価方法書が公告され、中央新幹線(東京都・名古屋市間)建設の環境影響評価法に関する手続きが開始されました。

環境影響評価方法書(長野県版)の公告に合わせ、方法書に関する説明会が、県内六ヶ所(南木曾町二ヶ所、大鹿村、豊丘村、高森町、飯田市)で開催されました。それぞれの会場では、最初に、中央新幹線の概要、環境影響評価について、ナレーション付スライドによる説明があり、その後、

ポイントへの参加登録が行われ、

ポイントには、四十世帯を超える参加登録がありました。

環境影響評価制度

大規模な開発など環境に大きな影響を及ぼすおそれのある事業について、事業者自らが、事業が環境に及ぼす影響について、調査・予測・評価を行うとともに、事業計画、環

境保全のための措置などを公開し、住民等から環境保全の見地からの意見を得ながら、環境に配慮した事業とするための手続きを定めたもの。

最近の経過

【五月二十七日】
リニア中央新幹線の整備計画の決定に基づき、全国新幹線鉄道整備法八条の規定により、リニア中央新幹線建設を国がJR東海に指示

【六月七日】

JR東海が長野ルートを除く中央新幹線計画段階環境配慮書を公開

【八月五日】

JR東海が長野県分の中央新幹線計画段階環境配慮書を公開

【九月二十七日】

JR東海が中央新幹線の環境影響評価方法書を公告

十一月十日まで環境保全の見地からの意見を募集

編集後記

だんだんと涼しくなり、秋の深まりが感じられる時期となりました。今年も残すところあと二ヶ月です。

一面にも取り上げましたが、この夏は、東日本大震災による電力供給量の不足が見込まれ、企業、家庭において、様々な節電・省エネが行われました。一部の企業においては、作業時間を変更するなど生活に大きな影響を与えることとなりました。その一方で、各家庭では、使用していない電化製品のスイッチを切る、こまめに消灯するなどの行動を通じて、普段の生活の中で、どのようなところで電気を無駄に使っているかを意識することができたのではないのでしょうか。

電気の使い方方の無駄を省くことは、節電・省エネになるだけではなく、家計にも優しい生活になります。今後も、省エネの意識をもって生活していければと思います。

不法投棄監視パトロール

不法投棄監視連絡員
古林 安行（高森町）

私は主に行き止まりのある町道、林道を重点的な監視区域として巡回しています。

七月は地上アナログ放送から地上デジタル放送への完全移行の月であったため、山間部の草木が



覆い茂っている所などへの不用となるテレビの不法投棄を心配していましたが、今のところ発見されておられません。しかし、五月の連休後や、夏休みの後には、山林近くの道路に一般ゴミのペットボ

トル、ジュースの缶等が入ったビニール袋が、一箇所にまとめて捨てられています。山林の道路下にも、その他回収不能なゴミが投棄されました。

この様な不法投棄が少なくなると、町のあちらこちらに不法投棄禁止の看板や、不法投棄予防の鳥居などが、車で走っていると良く目に付くよう設置されています。また、町でも春と秋の二回、町民の協力によるゴミ拾いや、河川清掃が行われています。これらはゴミゼロを願う町の取り組みです。

これから秋の行楽シーズンを迎え県外からの観光客も多くなり、ポイ捨てなども後を絶たないと思います。恵まれた自然環境の中で生活出来る喜びを感じる事が出来

ば、落ちているゴミも自然と拾えるようになるのではないかと思います。捨てられたゴミを拾い集め、処理する方々の存

高原の花 ヤナギラン保護活動

希少野生動物植物保護監視員
成澤 宏長（飯田市）

高原の夏の花、ヤナギランも近年の鹿食害で多くの生息地が失われているようです。

十年前前、中央アルプスの池山に登山した際、この山の登山道沿いでヤナギランの生育地について、信州大学が生息調査をしていたと記憶しております。

飯田市上村の「しらびそ高原」も昭和四十五年頃、国有林の林道が開設されると、南アルプスを全貌できる観光地として開発されてきましたが、その頃は、シナノキンバイ、クルマユリなどととも、ヤナギランが美しい姿を見せていました。その後、山荘の敷地造成で生息地が失われたり、鹿の食害で年々減少し、今では全くそれらの姿は

在を思い、不法投棄が少しでも少なくなる事を願いながら活動を続けて行きたいと思えます。

不法投棄監視連絡員として思うこと

松村 文人（売木村）

「この前、あそこで何やってたの？」

不法投棄監視連絡員として思うこと

松村 文人（売木村）

知り合いに、たまに言われる。不法投棄監視連絡員になってからは、道ばたでウロウロしていることが多くなったからだと思う。

車で通りすぎるだけでも、見ている人はいる。国道、村道を問わず、ゴミはどこにでも落ちていた。これを減らすことは、大変なことだと思っているが、人の目がある、だいたい違うことにな

選定し、町づくり委員のボランティアにより鹿よけの柵の設置をし、同時に種まきをしました。幸い地区内の民家で保護されていたヤナギランから種を採取することが出来ました。さらに愛好家によつて前年に藩種試験をし、成果が得られていたことが今回の計画の実施となりました。今後もこの事業の遂行により、以前のような高原の

花を楽しみむことが出来るよう望んでいるところですよ。



るかもしれないと思ったりもする。

そういうわけで、見回りに出るときは、なるべく人がありそうな日や、天気の良い日に、なるべく目立つよう行動することを心がけている。

ここ数年の間では、幸いにも、大がかりな不法投棄は発生していないのだが、家庭ゴミの多さが目立つところ、少しでも人の気持ちが変わっていくことを考えながら、ゴミ拾いの日々であります。

日本で最も美しい村「大鹿村」

不法投棄監視連絡員 気賀沢 昭 (大鹿村)

大鹿村は、赤石山脈を境として静岡県に接しているほか、伊那市、駒ヶ根市、中川村、松川町、飯田市など多くの市町村と接している人口千人余りの村です。人口は少ないのですが、面積は広く、

この大鹿村は、平成十七年十月に日本の農山村の景観・文化を守る活動を行うため、全国の七町村とともに「日本で最も美しい村」連合を設立し、これに加盟しました。自らの村に誇りを持って自立し、将来にわたって美しい地域であり続けるための活動をしています。私も不法投棄監視連絡員として、他の市町村から大鹿村へ通じる幹線道路や、村内を縦断する国道、県道、また村内の観光地へ通じる道路沿いを中心にして、パトロールをし、少しでも美しい村の手助けとなるように、また、村民や村を訪れた人が気持ちよく過ごせるように願って活動しています。最近では映画で大鹿村が舞台になったこともあり観光客が増加し、弁当や空き缶などのゴミ袋を、



そのほとんどが山林となつています。不法投棄は他の市町村と境を接した人の気配のない山奥に多いため、この広大な面積の大鹿村をパトロールすることは実に大変なことです。

袋ごと道路沿いに捨てるケースが目立ち、マナーの悪さに閉口しています。これからも「日本で最も美しい村」の不法投棄監視連絡員として、大鹿村への不法投棄が無くなるよう活動したいと思えます。

袋ごと道路沿いに捨てるケースが目立ち、マナーの悪さに閉口しています。これからも「日本で最も美しい村」の不法投棄

監視連絡員として、大鹿村への不法投棄が無くなるよう活動したいと思えます。

身近にある動植物

自然保護レンジャー

前島 正介 (大鹿村)

毎年九月になると気になる植物がある。唯一、

伊那(イナ)と名のつく植物、イナトウヒレンである。イナトウヒレンは、環境省版レッドデータブックにおいて絶滅危惧Ⅱ類(長野県版では絶滅危惧ⅠB類)に入る。

今年も見ることが出来るか、村内巡視の折に見に廻った。林道工事による消失を免れた数株のイナトウヒレンは、林道沿いの道端に可憐な花をつけて、秋風に揺れていた。近くには薄いピンク色の花をつけたミヤマモジズリの花も見つけた。また、帰り路に野鳥のミゾゴイが、林の中で何やら餌をついばむ姿も見ることができた。さらに、真っ赤な実をつけた見事なベニヤマシャクヤクの群生地

を見て廻り、帰路について。今回巡視した地域は、リニア計画の予定地である、三キロの範囲内であった。私の知る限りでは猛禽類のイヌワシ、クマ

タカなどの生息地でもある。大鹿村内で今まで公共事業を免れた場所が、絶滅危惧種の植物や動物たちの生活の場所となつていることを考えると、リニア工事がもたらす影響は大きいのではないだろうか。掛け替えのない自然を未来の子供たちに受け渡したい。



イナトウヒレン



ベニヤマシャクヤク



ミゾゴイ